

信州大学-Curtin University of Technology  
大学間学術交流協定に基づく  
平成 20 年度夏期海外単位認定プログラム実施報告書



信州大学

- 2008 -



Curtin



平成 20 年 12 月 22 日

# 信州大学医学部保健学科

・ 学術交流にあたって	・・・・・・・・	3
・ 学術交流の概要	・・・・・・・・	4
・ カ・ティン工科大学の概要	・・・・・・・・	6
・ 平成 20 年度夏期海外単位認定プログラム		
1. はじめに	・・・・・・・・	7
2. 夏期海外単位認定プログラム		
3. 研修期間		
4. 研修場所		
5. 研修プログラムの内容	・・・・・・・・	8
6. 参加人数	・・・・・・・・	9
7. 指導教員		
8. 研修費用		
9. 研修日程	・・・・・・・・	10
10. 研修プログラム	・・・・・・・・	11
11. 学生アンケート	・・・・・・・・	14
12. 学生レポートおよび感想文	・・・・・・・・	20
(編集後記)		



(表紙の写真は、研修最終日の修了式後、Curtin 工科大学にて)

## I. 学術交流にあたって

### 信州大学医学部保健学科長 市川元基

西オーストラリア州パースのカーティン工科大学への海外短期単位認定プログラムに、今年度は看護学専攻 13 名、検査技術科学専攻 8 名、理学療法学専攻 4 名、作業療法学専攻 4 名、大学院修士課程保健学専攻大学院生 1 名の計 30 名の学生さん達が 3 週間のプログラムに参加されました。また大学院保健学専攻修士課程大学院生 1 名も最後の 1 週間のコースに合流され、病院や医療施設の見学に加わりました。今年度は原油サーチャージによる航空運賃の高騰などの問題もありましたが、学生さん達は事前学習を含めて一生懸命がんばり、有意義な留学生活を送られたと思います。今回の海外での経験を活かしてさらに勉学に励んでいただくことが本プログラムの意義であり、これからの各人の努力に期待します。

事前のカーティン工科大学との交渉、プログラムの作成、航空券の確保等の準備を滞りなく行ってくださった教職員の皆様、また渡航中の学生さん達の安全と健康に気遣ってくださった付き添い教員の方々に深謝いたします。今回のプログラムは平成 20 年度学内版 GP(文部科学省の「平成 20 年度大学教育の国際化加速プログラム」に信州大学として応募)からの資金及び信州大学医学部保健学科同窓会からの資金の援助のもとに運営されました。この学内版 GP 作成に関わってくださった教職員の方々、また学内版 GP 選定にご配慮くださった方々、そして基金を寄付してくださった信州大学医学保健学科同窓会の皆様に感謝いたします。

### 「カーティン工科大学との学術交流を同総会は支援していきます」

### 保健学科同窓会長 川上由行

本年の西オーストラリア州パースにあるカーティン工科大学における海外短期単位認定プログラムは、8 月 9 日(土)から 8 月 30 日(土)までの 3 週間で実施され滞りなく終了しました。参加学生はこれまでで最大人数の 30 名(1 週間コース 1 名を含めると 31 名)で、引率教員を含めた全員が元気で帰国しました。パースでの Curtin-Life を十分に満喫された学生さんには、掛け替えのない日々を体験されたことと思います。そしてこのプロジェクトの円滑運営に対して労力を惜しまずに支援された教員各位、そして実際に引率された教員各位には、毎年のことながら本当にお疲れさまでした。

本プロジェクトは発足以来、着実に成果を上げて来ているのを実感させていただいております。昨年はカーティン工科大学看護学部のパメラ・ロバーツ先生を招聘して交流を深めることが出来ましたが、今後は更に一歩進めて、学生相互の交換留学や教員相互の交流をも視野に入れた学術交流の取組みへと発展させて行っていただきたいと念じております。

教員相互間の学術交流、また本保健学科学生、また保健学専攻大学院生とカーティン工科大学の学生相互間での益々の有効的な交流へと進展して行くことを祈念しつつ、われわれ保健学科同総会は、この学術交流を支援して行きます。

建設的な意見交換の中でこの素晴らしいプログラムがより一層の輝きを増していくことを信じています。

## II. 学術交流の概要

### 1. 学術交流協定及び学生の交流に関する覚書締結の経緯と交流実績

- 1) 1992年8月、イギリス、ロンドンで開催された第11回世界理学療法連盟学術集会に出席した信州大学医療技術短期大学部藤原孝之教授(現 郡山健康科学専門学校/東都国際ビジネス専門学校 理事・学校長)と、カーティン工科大学健康科学部ジョン・コール教授との間で教育・研究に関する情報交換が始まった。
- 2) 1997年3月、藤原孝之、楊箒隆哉両教授およびゴウ・アー・チェン助手(現准教授)の3名が、カーティン工科大学副学長宛の本学学長親書を携え健康科学部の遠隔地教育システムに関する資料収集と共同研究課題の打ち合わせを目的として、カーティン工科大学を訪問した。カーティン工科大学学長、健康科学部長、看護学科、医学検査学科、理学療法学科、作業療法学科等のスタッフとの会談の折、両大学間の、より積極的な学術交流が話題となり、教員、学生交流の早期実現に向け検討することで合意した。
- 3) 1998年7月-8月、藤原孝之教授が文部省在外研究員派遣でカーティン工科大学健康科学部理学療法学科客員教授として滞在した折、カーティン工科大学健康科学部スタッフミーティングに出席し、当該大学の多くの教官より大学間交流に関する質問を受け、同大学教員が信州大学との大学間学術交流に興味を示していることがわかった。
- 4) 1999年3月、本学藤原孝之、楊箒隆哉両教授がオーストラリアに出張した際、副学長ジョン・ミルトン・スミス教授、健康科学部長チャールズ・ワトソン教授、看護学科主任教授マイケル・ヘイゼルトン、理学療法学科主任教授ジョン・コール、国際教育課程担当パム・ロバーツ女史等と両大学間の学術交流推進を話題に会談した。両大学の資料を交換し検討した結果、単一学部間に留まらず、広い学際領域での学術交流を目指すことを目標にすることで合意した。その際、カーティン工科大学副学長から大学間協定に関する雛形文書を預かった。
- 5) 1999年4月、学術交流協定を締結した。
- 6) 1999年5月、横浜で開催された第13回世界理学療法連盟学術集会に特別講演演者として来日したジョン・コール教授が、信州大学を表敬訪問し特別講義を行った。
- 7) 2000年8月、学術交流協定に基づく学生の交流に関する協定書を締結。同9月、宮坂敏夫部長以下教官、学生20名がカーティン工科大学を表敬訪問し、各学局の国際交流担当者と短期留学の可能性を協議した。帰国後、部長のもとに5名からなるチームを置き、プログラムの実施計画を作成した。
- 8) 2001年8月、信州大学医療技術短期大学部学生32名がカーティン工科大学にて第1回夏季留学・単位取得プログラムに参加した。
- 9) 2002年(第2回)は27名、2003年(第3回)は24名、2004年(第4回)は20名、2005年(第5回)は29名、2006年(第6回)は28名、2007年(第7回)は15名および信大附属病院看護師2名、2008年は31名(内大学院生2名)が夏季留学・単位取得プログラムに参加した。

## 2. 学術交流協定及び教員と学生の交流に関する協定書の更新

1999年4月に締結された学術交流協定及び2000年8月に締結された学術交流協定に基づく学生の交流に関する協定書は、2004年4月に信州大学とカーティン工科大学の間で、「学術交流協定」及び「学術交流協定に基づく教員と学生の交流に関する協定書」として更新された。有効期限は2009年3月までの5年間で、両校の交流は一層親密に深められることになった。

学術交流協定 (2004.4～2009.3)

教員と学生の交流に関する協定書(2004.4～2009.3)

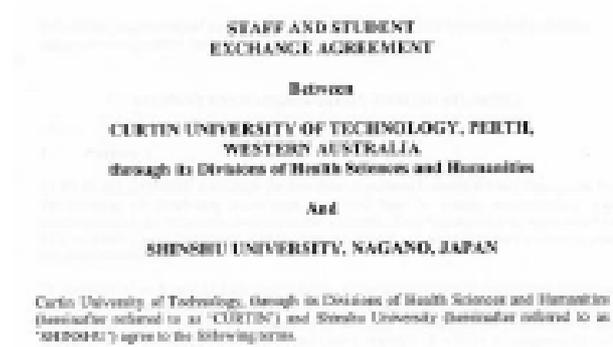


In furtherance of their mutual interests in the field of education and research and as a contribution to increased international cooperation, Curtin University Of Technology, through its Divisions of Health Sciences and Humanities, and Shinsyu University, have agreed that:

1. The two institutions will:
  - (i) cooperate in the exchange of information relating to their activities in teaching and research in fields of mutual interests;
  - (ii) promote appropriate joint research projects and joint courses of study, with particular emphasis on internationally funded projects;
  - (iii) endeavour to encourage students and staff to spend periods of time in the host institution. The exchange of students will be dependent upon the execution of a formal Student Exchange Agreement mutually agreed between the parties in writing prior to commencement of this activity;
  - (iv) conduct cultural projects, as mutually agreed in writing between the parties, prior to commencement of this activity;
  - (v) conduct study tours, as mutually agreed in writing between the parties, prior to the commencement of this activity;
  - (vi) provide Study Abroad opportunities at undergraduate and graduate level as mutually agreed in writing between the parties prior to the commencement of this activity.

*Kevin Deary*  
 Vice-Chancellor  
 Date: 11 March 2004

*Kazuyuki Atsuki*  
 President  
 Date: 11 March 2004



**DEFINITIONS**

In this Agreement, unless the context will otherwise imply:

**HOME institution** means the institution at which the student intends to graduate; **HOST institution** means the institution that has agreed to receive students from the HOME institution.

**ACADEMIC YEAR** in the context of CURTIN means two semesters, from February to June (Semester 1) and July to November (Semester 2), and in the context of SHINSYU means April to August (Semester 1) and October to February (Semester 2).

**ACADEMIC STAFF** means Teaching Staff.

**EXCHANGE STUDENTS** means students attending the HOST institution with an requirement to pay tuition fees to that institution and where reciprocal obligations exist for the HOME institution to accept for equivalent students from the HOST institution in exchange, subject to the conditions outlined in this Agreement.

**STUDY ABROAD STUDENTS** means students attending the HOST institution on a full fee-paying basis, where no reciprocal obligations exist for the HOME institution to accept for equivalent students from the HOST institution.

**EXCHANGE PROGRAMME** refers to students undertaking study at the HOST institution either as Exchange or Study Abroad students; and staff undertaking a period of exchange at the institution of the other Party.

**CLINICAL PRACTICE** refers to activities undertaken by students as part of their medical course requirements to develop their professional competencies in working with clients. Clinical practice necessarily involves intervention requiring substantial specialist

*Kevin Deary*  
 Vice-Chancellor  
 Date: 11 March 2004

*Kazuyuki Atsuki*  
 President  
 Date: 11 March 2004

## カ・ティン工科大学の概要

### 1. 設立

- 1) 1967年: The Western Australian Institute of Technology (WAIT) として創設。
- 2) 1987年: Curtin University of Technology となる。

\*カーティン工科大学の名称は、オーストラリア首相を歴任したジョン・カーティン創設者に由来する。パースは日本でも古くから遠洋漁業の基地として知られている。広大なキャンパスを有機的に機能させるため、学内に国際教育担当部門を独立させ、情報ネットワークを整備し、国内外の教育研究機関と遠隔地教育・研究を推進している。1996年から、シンガポール、マレーシア、インドネシア、香港等の教育機関とインターネットを利用した学位取得課程を展開し、実績を上げている。大学院教育では、卓越した教育プログラムが評価され、非英語圏のみならずアメリカ、カナダ、ヨーロッパの留学生も相当数在学している。

### 2. 位置

- 1) 西オーストラリア州唯一の工科大学(公立)
- 2) メインキャンパスはパース(Perth: 西オーストラリア州の州都。人口約120万)の郊外ベントレー(Bentley; 中心部より10キロ南東へ位置、海岸まで車で20分)に立地し、他にPerth中心部の大学院キャンパスとその他のキャンパス(Kalgoorlie, Muresk, Sydney, Sarawak; Malaysia)を有する。

Address: Kent Street, Bentley, WA6102, Perth, Western Australia  
:08-9266-9266  
HP-address: <http://www.curtin.edu.au/>

### 3. 学部等

- 1) 学群(学士): 経営学, 健康科学, 人文学, 理工学, アボリジニ研究
- 2) 大学院(修士, 博士): 経営学, 健康科学, 人文科学, 理工学, アボリジニ研究, 公共政策

### 4. 学生数および教職員数(2007年度)

- 1) 学生数: 41,348人(現地留学生数: 107ヶ国, 8,809人)
- 2) 教員数: 1,238人
- 3) 職員数: 1,627人

## IV. 平成 20 年度夏期海外単位認定プログラム

### 1. はじめに

信州大学-カーティン工科大学間学術交流協定にもとづき、平成 20 年度夏期海外単位認定プログラムが平成 20 年 8 月 9 日から 8 月 30 日の約 3 週間にわたり、カーティン工科大学及びパース市内外の関連施設・病院で実施された。本年のプログラムには 29 名の信州大学医学部保健学科学生、2 名の医学系研究科保健学専攻大学院生が参加した。

カーティン工科大学での単位認定プログラムの実施にあたり、5 月から 7 月にかけて、単位認定プログラム全般のオリエンテーション、研修内容の説明、研修間経資料の配布と事前学習の説明が行われた。

### 2. 夏期海外単位認定プログラム

- 1) 目的：他大学・文化での学習・生活体験を通じ、国際的視点から医療従事者としての態度を涵養する。
- 2) 本学における単位認定：国際医療協力論の単位として認定する。単位認定には、カーティン工科大学での全てのプログラムに参加することとし、研修レポートの提出が必須である。

### 3. 研修期間

研修期間：平成 20 年 8 月 9 日(土)～8 月 30 日(土)，22 日間

### 4. 研修場所

- 1) 研修キャンパス；カーティン工科大学ベントレーキャンパス

- 2) 見学施設/演習場所：

(全専攻共通)

Rowethorpe Nursing Home and ILC (Independent Living Centre), Perth  
Princess Margaret Hospital, Perth

(看護学専攻)

Anatomy practical session, Curtin University  
King Edward Memorial Hospital

(検査技術科学専攻)

Laboratory Practice/Tutorial, Curtin University  
Clinipath Laboratories, West Perth  
Royal Perth Rehabilitation Hospital Shenton Park  
St John of God Pathology Osbourne Park

(理学療法学専攻・作業療法学専攻)

Anatomy practical session, Curtin University  
Community Based Physio Services Bentley Clinic  
Physio Tutorial  
Royal Perth Rehabilitation Hospital Shenton Park

## 5. 研修プログラムの内容 (Curtin University of Technology)

### 第1週; Orientation & English Class/Hospital Communication for Health Professional (“CELC”)

- ・カーティン工科大学および CELC のオリエンテーション。
- ・ CELC による英語および医療英会話の授業。
- ・キャンパスツアー (図書館ツアー, 専攻ごとのツアー)。
- ・パース・バスツアー。

(\*CELC: Curtin English Language Centre)

### 第2週; Hospital Communication for Health Professional /Combined Lectures

- ・ English for Health Professional (医療英語)
- ・ 保健医療領域の合同講義。
  - The Australian Health Care System
  - Careers in Biomedical Sciences
  - Physiotherapy in Remote and Regional Australia
  - Auditing (看護・検査・理学・作業に分かれて, 講義の聴講)
- ・ 実習 (検査: 血液学、微生物学)
- ・ Excursion (Swan Valley)

### 第3週; Combined Lectures

#### Tutorial, Practice, Clinical Visits & Graduation Ceremony

- ・ アボリジニの文化とライフスタイルについての講義
- ・ 専攻別専門領域の講義
- ・ 実習 (看護・理学・作業: 解剖学)
- ・ 施設見学
  - Rowethorpe Nursing Home and ILC ( Independent Living Centre ), Perth
  - Princess Margaret Hospital , Perth
  - King Edward Memorial Hospital
  - Royal Perth Rehabilitation Hospital, Perth
  - Community Based Physio Services Bentley Clinic
  - Clinipath Laboratories
  - St John of God Pathology

## 6. 参加人数

看護学	:	13名(2年生3名,3年生10名)
検査技術科学	:	8名(2年生3名,3年生5名)
理学療法学	:	4名(2年生2名,3年生2名)
作業療法学	:	4名(1年生1名,2年生1名,3年生2名)
大学院保健学専攻	:	2名
合計		31名

## 7. 引率指導教員

プログラム担当教員(柳澤理子 教授, Goh Ah Cheng 准教授, 井口高志 講師, 寺澤文子 助教)  
研修参加教員(中西啓介 助手)

## 8. 研修費用

研修費用: 学生一人 39万円(予定)

【内訳】

・往復航空運賃	195,940円
・往復バス代	11,140円
・特別プログラム授業料	114,537円
英語クラス, 保健学共通講義, 専門別(看護, 検査技術, 理学療法, 作業療法)講義・実習, 施設見学(含む移動費用, 指導支援費用)	
・滞在費(3週間)	64,200円(ホームステイ, 食事込)
・諸経費*	19,523円
計	405,340円

\* 担当教員1名分の航空運賃, 宿泊費ならびに報告書等

プログラム担当教員3名分の航空運賃, 宿泊費は同窓会等から計上された。

## 9. 研修日程

今年度は三つのグループに分かれてパース入りすることとなった。8月9日午前10時半に信州大学北門よりバスで出発し、午後4時半東京成田空港に到着した。第一グループ(教員1名, 学生27名)はQF(カンタス航空)70便で午後8時40分に成田空港を出発した。第二グループ(教員1名, 学生2名)はQF360便で9時30分に出発した。なお, 教員2名, 大学院生1名はSQ(シンガポール航空)637便で午前11時30分に成田空港を出発し, シンガポール経由で8月10日午前0時に一足先にパースに到着した。

第一グループは8月10日午前6時00分にパース空港に到着した。カーティン工科大学国際教育担当者のオリエンテーションが空港ロビーで行なわれた。その後ホームステイ先の家族(ホストファミリー)の出迎えがあり, 各々がホームステイ先に出発した。学生はホストファミリーから, ホームステイ先での生活の規則, 通学経路の案内(ホームステイ先は大学から徒歩20分の所からバスを乗り継ぎ約1時間かかる所までいろいろある), 周辺の案内などのオリエンテーションを受けた。第二グループはブリスベン経由で10日午後1時40分にパースに到着し, ホームステイ先に移動した。

8月11日 Curtin 工科大学にてオリエンテーション, キャンパスツアー, パース市内バスツアーが行なわれた。

8月12日~8月29日, 英語および医療英会話の授業, ヘルスケアに関する講義, 保健医療領域の講義, 専攻別の講義の聴講, 施設見学のプロセスが実施された。プロセスの詳細をP11~13に示した。

8月29日午前10時30分, Graduation Ceremony(修了証書授与式)が行なわれ, 学生が一人ずつ英語でスピーチをした。続いて Farewell Lunch があった。その後学生はホームステイ先に帰宅し, 午後8時00分, ホストファミリーに送られてパース空港に集合, 午後11時00分 QF79便にてパース空港を出発した。

8月30日午前9時55分, 東京成田空港に到着し, 空港からバスで信州大学に向かい, 大学で解散した。

Curtin 工科大教員による Careers in Biomedical Science の講義



## 10. 研修プログラム一覧



DEPARTMENT OF LANGUAGES AND INTERCULTURAL EDUCATION  
SHINSHU UNIVERSITY ENGLISH AND HEALTH SCIENCES STUDY TOUR PROGRAM  
AT CURTIN UNIVERSITY  
August 9 – August 31 2000

### TIMETABLE

#### Week One: Nursing Group (Group A):

Time	Monday 11 Aug	Tuesday 12 Aug	Wednesday 13 Aug	Thursday 14 Aug	Friday 15 Aug
10.00 – 12.00	Orientation and welcome morning tea  Curtin student cards	9.00 – 10.00 OASIS login  10.00-12.00 English class	English class	10.00-11.00 Tour of Nursing facilities  11.00– 12.00 Library Tour	English class
12.00 – 1.00	LUNCH				
1.00 – 3.00	Bus Tour of Perth	English for health professionals	MRSA Testing 1-4 pm	English for health professionals	Free

#### Week One: PT/OT/Biomed Group (Group B):

Time	Monday 11 Aug	Tuesday 12 Aug	Wednesday 13 Aug	Thursday 14 Aug	Friday 15 Aug
10.00 – 12.00	Orientation and welcome morning tea  Curtin student cards	9.00 – 10.00 OASIS login  10.00-12.00 English class	English class	10.00-11.00 Library Tour  11.00– 12.00 Tour of PT/Biomed facilities	English class
12.00 – 1.00	LUNCH				
1.00 – 3.00	Bus Tour of Perth	English for health professionals	MRSA Testing 1-4 pm	English for health professionals	Free

Week Two: Nursing Group (Group A)

Time	Monday 18 Aug	Tuesday 19 Aug	Wednesday 20 Aug	Thursday 21 Aug	Friday 22 Aug
10.00 – 12.00	10 – 10.30 Morning tea with Nursing staff and students  Auditing of Nursing lectures	English for health professionals	English for health professionals	English for health professionals	Excursion to the Swan Valley: Caversham Wildlife Park, Sandalford winery and Margaret River Chocolate Factory
12.00 – 1.00	LUNCH				
1.00 – 3.00	Auditing of Nursing lectures	Lecture: The Australian Health Care System	Lecture: Careers in Biomedical Science	Lecture: Physiotherapy in Remote and Regional Australia	

Week Two: PT/OT/ Biomed Group (Group B)

Time	Monday 18 Aug	Tuesday 19 Aug	Wednesday 20 Aug	Thursday 21 Aug	Friday 22 Aug
10.00 – 12.00	Auditing of PT/OT/ Biomed lectures / practical sessions	English for health professionals	English for health professionals	English for health professionals	Excursion to the Swan Valley: Caversham Wildlife Park, Sandalford winery and Margaret River Chocolate Factory
12.00 – 1.00	Lunch with Curtin students 408 Level4 Student Common Room	LUNCH			
1.00 – 3.00	Auditing of PT/OT/ Biomed lectures / practical sessions	Lecture: The Australian Health Care System	Lecture: Careers in Biomedical Science	Lecture: Physiotherapy in Remote and Regional Australia	

Week Three: Nursing Group (Group A)

Time	Monday 25 Aug	Tuesday 26 Aug	Wednesday 27 Aug	Thursday 28 Aug	Friday 29 Aug
AM	Lecture: Health Concepts in Family Care	Anatomy practical session	Lecture: Aged Care and Geriatrics	Free	9.30 – 10.30 Course evaluation
12.00 – 1.00	LUNCH				10.30 – 11.30 Graduation Ceremony
PM	Guest Speaker: Aboriginal Culture and Lifestyle	Visit: Rowethorpe Nursing Home and ILC	Visit: King Edward Memorial Hospital	Visit: Princess Margaret Hospital	11.30 – 1.00 Lunch

Week Three: PT and OT Group (Group B)

Time	Monday 25 Aug	Tuesday 26 Aug	Wednesday 27 Aug	Thursday 28 Aug	Friday 29 Aug
AM	FREE	Anatomy practical session	Community Based Physio Services Bentley Clinic	Royal Perth Rehabilitation Hospital Shenton Park	9.30 – 10.30 Course evaluation
12.00 – 1.00	LUNCH				10.30 – 11.30 Graduation Ceremony
PM	Guest Speaker: Aboriginal Culture and Lifestyle	Visit: Rowethorpe Nursing Home and ILC	Physio Tutorial	Visit: Princess Margaret Hospital	11.30 – 1.00 Lunch

Week Three: Biomedical Sciences Group (Group C)

Time	Monday 25 Aug	Tuesday 26 Aug	Wednesday 27 Aug	Thursday 28 Aug	Friday 29 Aug
AM	FREE	Visit: Royal Perth Hospital	Visit: St John of God Pathology	Visit: Clinipath Laboratories	9.30 – 10.30 Course evaluation
12.00 – 1.00	LUNCH				10.30 – 11.30 Graduation Ceremony
PM	Guest Speaker: Aboriginal Culture and Lifestyle	Visit: Rowethorpe Nursing Home and ILC	FREE	Visit: Princess Margaret Hospital	11.30 – 1.00 Lunch

## 11. 学生アンケート

### A 出発前の準備について

#### 1 費用の捻出

	N	%
1) 家族が全額負担	11	40.7
2) 自己資金のみ	3	11.1
3) 自己資金と家族の支援	13	48.2

#### 2 渡豪前の自己学習

	N	%
1) 自己学習をした	19	70.4
2) 何もしなかった	8	29.6

#### 3 研修プログラムの発表時期

(4月の新入生・在校生オリエンテーション)

	N	%
1) 適切	15	100
2) 不適切	0	0

#### 4 参加申込み締め切りの時期

	N	%
1) 適切	25	92.6
2) 不適切	2	7.4

#### 5 出発前オリエンテーションの時期

	N	%
1) 適切	25	92.6
2) 不適切	2	7.4

#### 6 オリエンテーションの内容

	N	%
1) 適切	23	85.2
2) 不適切	3	11.1
3) 未記入	1	3.7

#### 【事前学習した内容】

英語・英会話 / オーストラリアの最近の話題・文化  
パースの地理的情報  
アボリジニについて、健康問題  
メディケア  
オリエンテーションで紹介されたもの  
昨年の資料  
専門用語の単語を調べた  
オーストラリアの介護、看護、医療の現状

#### 【事前学習が必要だった内容】

英語・日常英会話  
オーストラリアの医療全般・保健の仕組み  
日本の医療について

#### 【4のコメント】

・約束どおり、3週間期間を設けてほしかった。あるいは早く締め切ることがあるという説明がほしかった。友達  
が何人か行くことができず、残念だった。  
・もう少し考えたかったので、5月の最終週がよかった。

#### 【5のコメント】

・あと1~2回、回数を増やして欲しい。  
・時期が遅いと思ったので、6月中までにほとんどの説明  
が終わるようにしてもらいたかった。  
・オリエンテーションのみでなく、カーティンの授業に参加  
するのであれば、失礼のない準備(英語・福祉制度・  
解剖の知識)も必要ではないのか、と思った。

#### 【6のコメント】

・ホームステイ先の情報がもう少し欲しかった。  
・変圧器、お金、事前学習の内容、砂漠でのカメラの取  
り扱い等について、もう少し説明が欲しかった。

## B 自由記載分まとめ

### 1. 参加動機

#### 1) 海外の医療制度を学び、実践現場に触れたい(19)

- ・海外の医療や授業を体験できる良い機会であるから
- ・講義や、施設・病院の見学を通して、実際にオーストラリアの医療に触れることができるから
- ・医療における視野を広げたかったから
- ・オーストラリアの大学院レベルの授業に参加してみたかったから

#### 2) 異文化に触れたい(18)

- ・異なる文化の中で生活してみたかったから
- ・もともと海外に興味があり、行ってみたかったから
- ・大学入学時から、ずっと留学したいと考えていたため
- ・ホームステイができるから
- ・もともと海外で働いてみたいと思っていて、将来、必ず役に立つと思ったから

#### 3) 自己成長したい(4)

- ・ホームステイという貴重な体験を通して、成長できたらよいと考えたため
- ・海外の医療や生活に触れることによる考え方の変化を期待して
- ・視野を広げたいから
- ・自分を成長させるため

#### 4) 語学力を向上させたい(4)

- ・英語力を伸ばしたいから
- ・英語を海外で学習したかったから

#### 5) プログラムが魅力的だ(2)

- ・カーティンのプログラムを知り、参加したくなったから
- ・海外研修が楽しそうと思ったから

#### 6) その他(5)

- ・3年生の今年は行ける最後のチャンスだと思ったから
- ・4年生で行くことは不可能だと考え、時間のある今は最後のチャンスだと思ったため
- ・これから先、海外に3週間も行ける時期は、ないかもしれないと思ったから
- ・時間的、経済的に余裕があったため、時間を有意義に使いたかったから
- ・家族の強い勧め



(初日のオリエンテーション)

### 2. ホームステイについて

#### <よかったこと>

##### 1) 英語のコミュニケーションを通じて

- ・英語を話さなければならない環境により、自然と英会話の機会が増え、語学力が向上した
- ・片言の英語でも「伝えたい」という気持ちがあれば、心が通じ合えるということを実感した
- ・共通の言語で話せる喜びを感じた
- ・生活するための生きた英語の中に入ることができた

##### 2) オーストラリアの生活・異文化を体験して

- ・オーストラリアでの生活に触れられた
- ・日本ではなかなか食べられないものが食べられた
- ・日本とは違う、オーストラリアの文化に触れられた

##### 3) 人間関係の広がり

- ・ホストマザーが優しく留学生に慣れていて過ごしやすかった
- ・他の国の留学生と交流が持て、友達になれた
- ・両親が増えたような感じでうれしい

##### 4) 自己成長できた

- ・積極性と自立性が身についた
- ・“自分のことは自分でやる”ことで、自主的に生活できた

#### <困ったこと>

##### 1) ホストの言葉がわからない

- ・英語が聞き取れなかった
- ・話すスピードが速かった

##### 2) ホストとコミュニケーションがうまくとれない

- ・コミュニケーションがうまくとれなかった
- ・食事中などに、静かになると気まずかった
- ・ホームステイ先に家族のメンバーが1人だったため、会話に詰まったり、なんとなく寂しかった

##### 3) 生活習慣の違いにとまどった

- ・生活に慣れるのが、難しかった

- ・洗濯が週に1回しかなかったため、少し大変だった
- ・家の鍵を貸してもらえなかったのに、毎日17時以降に帰らないと誰もいなくて、家に入れなかった
- ・シャワーの時間が3分で短かった
- ・最初、ゴミ出しの日やどこに出せばいいのかわからず、どんたまってしまった

#### 4) 生活環境の違いにとまどった

- ・ごはんの味が、少し自分には合わなかった
- ・洗濯用の洗剤が肌に合わなかったこと(洗剤を変えてもらったら、肌のかゆみがおさまった)
- ・最初に、家の設備の使用法等の説明がなかった
- ・ドライヤーがなかった

#### 5) ホスト以外の人たちとの関わり

- ・毎回違う親戚の人がよく家に来て、大声で話していて、ストレスがたまった
- ・ホームステイ先に、ホストマザーの友達 came とき、すぐにマザーが友達と盛り上がりすぎてしまったため、どう会話に入って、あいさつしたりすれば、よいか、わからなかった

#### 6) その他

- ・ステイ先の家族が忙しくて、週末しか時間がなかったのに、週末に学校のプログラムに参加して、あまり一緒に時間を過ごせなかった
- ・家の周囲に街頭が少なく、夕方～夜がこわかった

#### < 要望他 >

- ・もう少し家族と過ごす時間を設けてほしい
- ・ホームステイ代をもう少し安くしてもらいたいと思う
- ・土曜日の集合が大変だったから、市街地に近い場所があった
- ・ホームステイするならば、家族のメンバーが多かったり、留学生が何人が居るところに行く方が、会話の機会が増え、英語が上達しやすいと思う
- ・交通の便が悪く、通学に1時間半以上かかったことが、始めのうちきつかった
- ・ランチをホストが作ってくれるところがうらやましかった



(カンガルー)



(Kings Park から見た Perth 市内)

### 3.3 週間のコースについて

#### < よかったこと >

#### 1) 海外の医療について学べた

- ・オーストラリアの医療事情について知ることができた
- ・日本以外の医療について学べた
- ・病院やクリニックなどなかなか行けないようなところを見学できた

#### 2) 語学力が向上した

- ・英語がどの程度話せてどの程度通じるのかが分かり、もっと英語を勉強したいと思えるようになった
- ・英語も上達し少し自信になった
- ・授業が英語だったので英語の聴き取りが少し上達した
- ・実際の講義を受けられた
- ・実際に行われている授業に参加することができてよかった
- ・実習や講義を受けられた

#### 3) 人的交流が広がった

- ・海外の友だちができた
- ・ホストファミリーと本当の家族のようになれた
- ・ホストファミリーと過ごせた
- ・カーティンの学生さんと友だちになることができ、アイススケートにも連れていってもらった

#### 4) 異文化体験ができた

- ・異文化の中で生活したり海外の施設見学ができたりととても貴重な経験をすることができた
- ・ホームステイで海外の文化や習慣の違いを身近に味わえた
- ・ホームステイ先で自由に過ごせた
- ・ただ皆でグループ行動で過ごすのではなく、時には散って学生たちと話したり遊んだりできた
- ・パースの街を満喫できた

#### 5) コースに対する満足感

- ・3週間ともコースの内容が違ったので楽しく勉強することができた
- ・英語の勉強、専門の勉強、施設・病院の見学、楽しみなツ

アーなどバランスよく配置されていた

・格安で土曜日のツアーに行けた

#### 6) 自己成長できた

・将来やりたいことが見えて、これからのことを考えることができた

・精神的にも成長できた

・経験したことのないことばかりで、失敗も含めてよい経験になった

#### < 困ったこと >

##### 1) 英語力不足

・講義内容を聞いても聞き取れないことが多く、質問しようにもできなかったこと

・英語の授業があまりよく分からなかった

・講義をしてくださる先生の英語が分からなかった

・授業のスピードについて行けず混乱することがあった

・早口の英語の聴き取りに苦労した

・英語のクラスでは参加者のレベルに差があった

・病院見学の時に英語が(もう少し)できる人が一人いれば、もっと理解が深まったかなと思った

・大人数の施設見学だと案内してくれた人の話が聞き取りづらいことがある

・院生のクラスは参加者たちは事前に多数の資料を読むなど準備をしてきていた。英語や内容のレベルも高かった

##### 2) 連絡の不備

・週末のツアーなど集合時間や解散時間等もっと詳しく早めに教えて欲しかった。ホームステイ先に伝えるのに困った

・変更が多かった

##### 3) その他(交通機関, ホームステイ等)

・休日の早朝, 夕方のバスの本数が少ないことや時間通りに運行していないことが大変だった

・ご飯の量・種類をもう少し増やして欲しかった

・大学の敷地内で迷子になりそうになった

#### < 要望 >

##### 1) 英語クラスのスタイル変更

・医療英語の授業は医療の知識のある方にしてもらいたい

・英語のクラスは, 健康や医療のトピックに集中してもよい

・講義のレジュメを配って欲しい

##### 2) コース設定の希望

・事前に(希望が通らなくても)学生の見たい部門をアンケートでとっておいてコースを決めて欲しかった

・一緒に実習する機会がもっと欲しかった

・もう少し専門科目の授業を増やして欲しい

・カーティンの同専攻の人たちがどんな授業を受けて実習しているのか, もっと見学したい

・検査の授業への参加は, 見学でなく一緒に実験をやりたい

・他専攻の話をもっと詳しく聞けたら面白い

・できればもっと早くコースを決定して欲しい

・アボリジニについて時間をとりすぎている気がする

・留学生や現地の人とふれあう機会がもう少しあればよい

##### 3) アクティビティの調整

・ピナクルズはあまり面白くない

・少し遊びが多すぎる気もする

##### 4) 留学期間の延長

・3週間はあっという間だった。もう少し長くてもよい

#### 4. 満足度の低かった内容

##### 1) 授業について

・始業時間を1時間位(9時から)早めてもいいのではないかと  
・院生の授業が組まれるたびに, 直接担当教員とのやりとりを必要とした

・英語の授業は, レベルが合わなかった

・アボリジニについて勉強するならば, 日本のアイヌの事も知っておいた方がよいのではないかと思った

・英会話のスピードが速くて, 聞き取れなかった

##### 2) 施設見学

・もう少し検査室を見学したかった

・病院では, 検体検査室だけだったので, 細菌や, 病理など他のところも見たかった

・ケア施設(介護施設)を半日も見ても, 検査とはあまり関係していないので, つまらなかった

・もっと, 病院見学に行ってみたかった。特に一般病院を見学したかった

##### 3) 研修全体の評価

・コースの内容が, 簡単なものと難しいものの差が激しすぎた  
・適当にあしらわれている感じであまり私たちを受け入れていない感じがした(ただし, 院生の授業はそれを感じなかった)



(羊のシェーピング・ショー)

## 5. 短期留学プログラムに参加して(経験の意味)

### 1) 視野の広がり

- ・オーストラリアでのPTの実際を見て自分の視野が広がった
- ・自分の知らない分野の医療もみることができてよかった
- ・医療に対する自分の価値観が変わったことに加えて、芸術や大学の教育など色々なものに対する考え方が変わった
- ・実家から大学に通い海外にも行ったことが無かったので自分の世界を広げることができた
- ・外国の医療について実際見学できたことから、日本との相違点も知ったし、それぞれの良さも知れた
- ・海外へ行くのははじめてだったが、よい体験になったのでまた機会があれば別の国に行ってみたいと思うようになった
- ・3年で参加したので授業や見学の内容もとても興味深く日本についてもさらに知りたいと思った

### 2) 進路, 将来展望

- ・オーストラリアで看護師資格を取ろうとしている先生の話聞いて、自分もいつかは海外でマスターやドクターをとっても良いなと考えるようになった
- ・将来海外で働くことも視野に入れてみようと思った
- ・英語にも少し自信がついたので海外で働くことも視野に入れてみようと思う
- ・希望する進路の関心がより強まった
- ・精神面での成長が大きかった。この経験をバネにもっと成長したい
- ・とても貴重な経験ができた。興味がある分野が見つかったのでこれから真剣に考えたい
- ・オーストラリアのPTは開業権があって地位が高いと感じた。日本でもPTの地位を上げるような活動もできたらよいと思う

### 3) 専門分野や医療に関する学習意欲の向上

- ・価値観の違いや、日豪それぞれのよい点を生かすケアを行いたいと感じ、今後の学習や就職後も向上の意欲につながる
- ・今後もっと学習に力を入れるようになると思う
- ・PTの学生の知識の多さを感じ、学習意欲が高まった
- ・英語への苦手意識がなくなり学習意欲が高まった
- ・カーティンの学生から学んだ積極的な態度を見習いたい



(ウオンパットと)

### 4) 英語学習の必要性

- ・様々な人と話すことの大事さを学んだが、そのために英語が必要になってくることを痛感した
- ・英語の学習を続けていかなければならないと感じた

### 5) 自分自身の振り返り

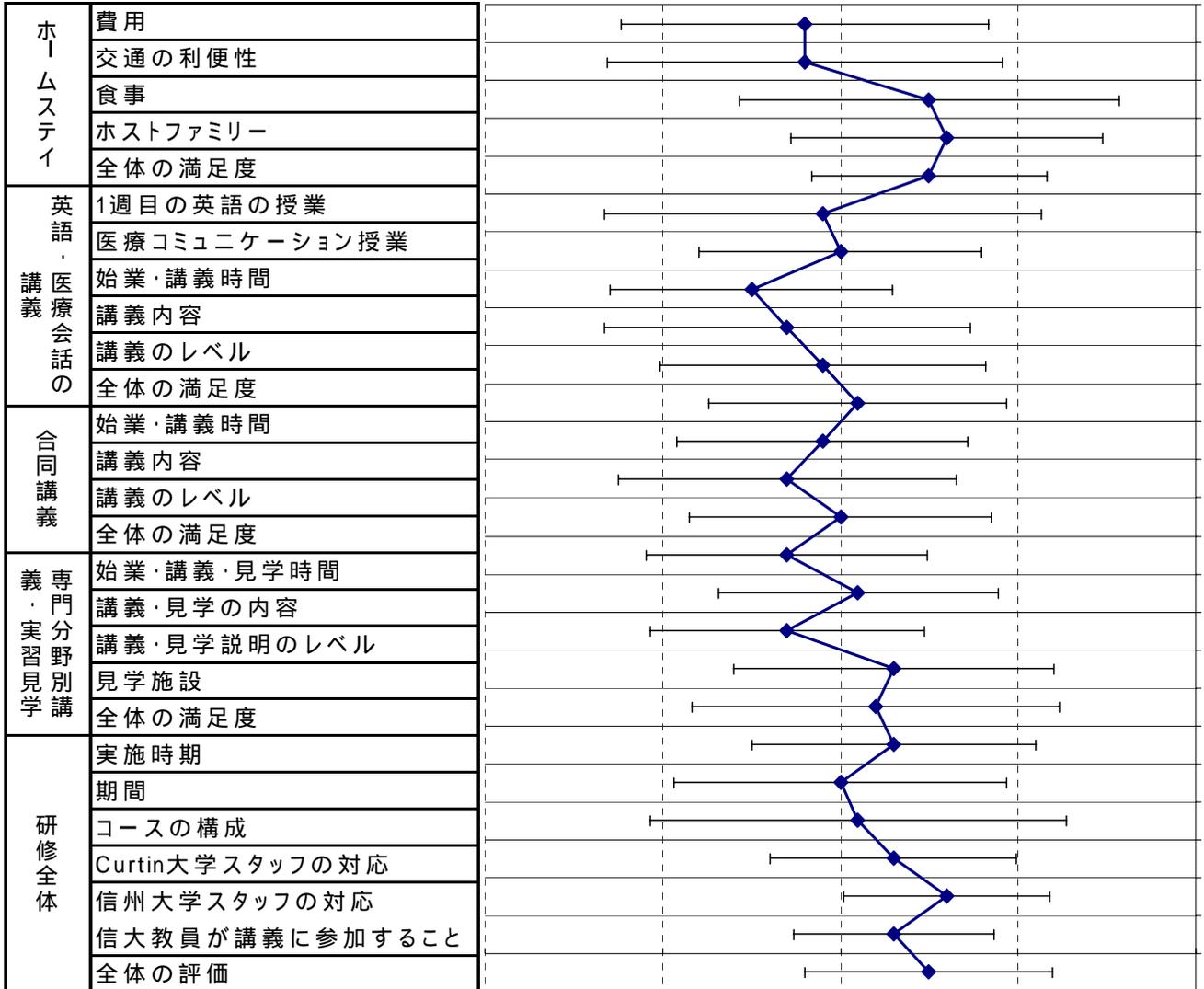
- ・自分自身を成長させることができた
- ・考え方が少し広くなったと思ったが、自分の「こういう医療従事者を目指したい」という目標は特に変わらないし影響は受けないと思う
- ・言葉をうまく伝えられない中でどうやってコミュニケーションをするかを学んだ



(砂漠でボーディング)

### C 研修に対する満足度

非常に不満      やや不満      どちらとも  
いえない      やや満足      非常に満足



(Mean ± SME)



(ロッドネスト島の海)

## 学生レポートおよび感想文

### 1) Curtin 工科大学短期留学プログラムに参加して

看護学専攻 2年 武井 馨世

私は、今回このプログラムに参加することができて、様々なことを学ぶことができたと思う。私にとってオーストラリアで過ごした3週間は、とても楽しく、多くのことを学ぶことができる貴重な期間であった。私は、このプログラムを通して主に次の4点を学ぶことができた。

1つ目は、オーストラリアの保健や医療についてである。講義を受けたり、施設・病院の見学に行ったりすることにより、実際のオーストラリアの医療に触れることができた。その中で、日本とは異なる制度や日本にはない制度、RFDSのシステムやアボリジニなどのことについて学ぶことができた。これらは興味深い内容のものばかりであった。



(King Edward Memorial Hospital 前にて)

2つ目は、「積極的に学ぶ」ということだ。私は、大学の講義の中で学生がとても積極的に質問をしていたりその質問から発展して議論が始まったりしていたのを見て、日本とは大きく異なっていると強く感じた。私は、日本のように受身で授業を聞いていたのでは、本当に学びたいことを学ぶことができないし、本当に学びたいと思ったら自分から積極的に質問をするなどしていかなくてはならないと感じた。3週目の施設・病院見学の際には、スタッフの方は大まかに施設・病院内をまわりながら説明してくれたが、詳しいことまでは説明してくれなかったため、質問を試みたところ病院のスタッフの方は質問に対して詳しく丁寧に答えてくれた。大学での講義、施設・病院の見学などを通して、自分が学びたいことを明らかにし、目的をもって学ぶ姿勢があれば自分で納得がいくまでより深く追求できると感じた。

3つ目は英語である。これまでは、英語を話せるよう

になりたいと思ってはいたが、受験のために英語を勉強していたようなものであった。私が日本を出発する前に最も心配していたことは、英語しか通じない国へ行きやっていくことができるのか、私の英語は通じるのか、ということであった。しかし、英語の授業ではコミュニケーションをとることを重視して行われ、ホームステイ先でもなるべくコミュニケーションをとるように努めていたため、2週目、3週目になっていくにつれて、英語で会話をするということが以前よりは慣れてきたと思う。また、少しずつではあるが英語を聞くということにも耳が慣れてきたように思う。

4つ目は、コミュニケーションをとることの大切さについてである。3週間を通して私が最も悔しかったことは、オーストラリアに来たばかりのころに、ホストファミリーとあまりコミュニケーションをとることができなかったことだ。何かを話そうとは思っていても、単語が出てこなかったり、どのように伝えたらよいかかわからなかったりして、コミュニケーションをとることをためらってしまっていた。「折角オーストラリアまで来たのだから」と思い、思い切って話してみると様々なことを話すことができるようになり、「どうしてこれまでコミュニケーションをとれなかったのだろう」と思えるようになった。私は、この反省を活かして、ホストファミリーとだけではなく、2週目の morning tea の時には、大学のスタッフの方と英語でコミュニケーションをとるように努めた。また、大学で知り合った他国籍の学生ともコミュニケーションをとるようにした。このことによって、様々な国の友達をつくることができた。私は、積極的にコミュニケーションをとっていくことにより、自分の世界観はどんどん広がっていくし、人とのつながりも増えていくということを実感することができた。

英語を使うことやコミュニケーションをとることについてオーストラリアに来て強く感じたことは、完璧な文章にする必要は全くなく、「伝えよう」という気持ちで一生懸命話すことや、とにかく英語を使ってコミュニケーションをとってみるということが大切であるということだ。私は、英語の授業の中や他の国の学生から“Don't be shy” “Take it easy” という言葉をかけられたことが特に印象に残っている。間違えることを恥ずかしいと思って話さないでいると、いつまでたっても英語は話せるようにはならない。コミュニケーションをとることをもっと気楽に考えて、より多くの人とコミュニケーションをとることを通して、それまで知らなかった単語や独特な言い回しを学ぶことができると感じた。また、コミュニケーションは人

と人をつなぐためには最も簡単であるが最も重要なものであると思った。

私は、日本に帰国してからもオーストラリアで学んだことを活かして、受け身ではなく積極的な姿勢で様々なことを学んでいきたいと思う。また、海外の看護や医療についてもより詳しく学びたいと思う。私には、海外で医療の仕事に関わってみたいという夢がある。このことを実現させるためには、まずは英語力をつける必要があると思うので、英語の勉強を続けていき、英語を使えるようになりたいと強く感じた。

私は、この3週間を通して日本では経験できないようなとても貴重な経験をすることができ、有意義な時間を過ごすことができた。今回のプログラムの中で、大学での講義、病院・施設の見学、畔上先生の話や聞くことなどを通して、多くのことを学び、吸収して行くことができたと思う。そして、海外で医療の仕事にかかわりたいとより強く考えるようになった。本当にこのプログラムに参加することができて良かったと思う。

## 2) カーティン工科大学での学習を終えて

### 理学療法学専攻 2年 橋本 孝樹

今回の短期留学プログラムは非常に多くのことを学べ、他では絶対に体験できないことを体験でき、そして毎日がとても楽しいものだった。最初にこのプログラムの説明会を聞いた時には、行きたいと思う反面、自分はオーストラリアに行って英語が理解できるのか、ホームステイは大変なんじゃないか、授業や見学の際に全く理解できないのではないかと不安でいっぱいだった。実際に今、パースでの生活を振り返ってみると、英語が理解できない場面やホームステイで大変さを感じる場面もたくさんあった。しかし、その度ごとに自分はこのプログラムに参加したことを後悔するのではなく、これも一つの勉強なのだと思い越えることができた。今ではこのプログラムに参加して本当によかったと思っている。

一番多くの時間を過ごしたホームステイでは、英語でのコミュニケーションの難しさをすぐに実感できた。けれど自分の思っていることを伝えられないままではオーストラリアまで来た意味がないと必死に伝えようと頑張った。そして、ジェスチャーを加えながら話したり、多少つかかりながらもアイコンタクトをしっかりと話せば伝わるものだとわかった。相手も分かると思ってきているのだから怖がらずに話してみることが大事だと思った。また、人とのコミュニケーションにおいて、アイコンタクトは本当に重要なものだと言った。相手の目

を見ていれば大体は理解してもらえたのか、全く理解してもらえなかったのか、どこから理解されなかったのかなど、本当に多くの情報が得られると思った。これは将来患者さんと接するときにも重要なことだと思う。また、目を見て話すことによって患者さんに安心感を与えられると思う。



(ピナクルズにて集合写真)

次に、ホームステイ先の印象として、水を非常に大切にしていることがあった。シャワーの時間は3分までで、洗い物をする時にも水を極力使わないようにしていた。あまり不自由さを感じなかったことや、こうやって水の量を減らしてでも十分生活できることから日本での生活は本当に無駄の多い生活をしているんだなと実感した。食事の場面では、マザーが毎日野菜のサラダを出してくれたり、お米の料理も出してくれたりしたので、オーストラリアに行く前に持っていた食事の印象とは全く違うものだった。そのどれもが本当においしくて毎日夕食を楽しみに家に帰っていた。

次に、英語の授業では、日常会話から医療の現場で使うことのできる言葉までいろいろと学べた。病名なども英語で教えてもらえる場面があり、これからいろいろな論文を読むためにはそういった専門的な英語もしっかりと覚えていかなければならないと再確認できた。

授業の中で本当に復習しなければいけないと感じた授業は、解剖の授業だった。自分たちも人体解剖をやっていたのに、この筋肉はどの筋肉だろうと考えるとなかなかでてこないものがあったので、一年の時の貴重な体験を無駄にしないためにもしっかりと復習しないといけないところだと思った。

授業をカーティンの学生と同じものを受けた時には、同じ学年なのにより多くのことを知っているなどという印象を受けた。一年から理学療法士になるための学習しか

していないという話を聞いた時には本当に驚いた。しかしそれだけでなく、自ら学習する姿勢をしっかりと持っているのだと思った。学生が実技テストを受けているところも見学でき、治療のよかった点と悪かった点のフィードバックを三人一組になってお互いに行っていた。自分がやっているだけではなかなか気づけない点もこうやってお互いの治療を見ることによって気づけるのでいいと感じた。日本の授業でも治療法の学習をしているときや、みなで同じことをしている時など、もっとお互いに気づいた点を言い合えるようにしたい。そのためには、授業で教わるだけでなく、自分で予習をして多くの情報を取り入れないといけないと思う。(中略)

最後の週にはクリニックや病院の見学を行った。特に印象的だったのは、クリニックの見学だった。3年生が個室の部屋で患者さんの治療を行っていた。患者さんとのコミュニケーションについては英語をあまり理解できない部分もあったけれど、しっかりと患者さんの目を見て、患者さんの意見を聞きながら治療を行っていた。患者さんは大腿骨の手術後で杖での歩行を行っていた。その歩行練習中に、杖が周りの器具にぶつかりながらも何度かそれを繰り返している場面があって、もし患者さんがそれにつまずいて転んでしまったら、と考えるとそういった危険のない場所で行ったほうがいいなと感じた。臨床実習を見学した印象として、本当に知識を多く持っており、自信を持って行っているなということだった。これからの実習において自信を持って評価や治療を行えるようにこれからもしっかりと勉強していきたい。

### 3) Curtin 工科大学短期留学プログラムを終えて

#### 検査技術科学専攻 3年 村松智恵美

Curtin 工科大学短期留学プログラムに参加して、毎日充実した日々を送ることができ、プログラムに参加していた3週間はとても早く、あっという間に過ぎてしまった。また、日本では経験できないようなとても貴重な経験をすることができた。

英語の中での生活は、英語の苦手な私にとってはとても苦労するところであり、なかなか聞き取れずに何度も聞きなおしてしまったり、うまく言いたいことが通じなかったりすることが多かった。しかしホストファミリーが親切に教えてくれたり、学校では友達に助けをもらいながら、過ごすことができた。また、すぐに通じなくても手振り身振りを含め、たくさん話し、伝えようとするのが大切だと感じた。英語が苦手だからこそ積極的に話しかけどんどん話さなければいけないと思った。

また日本とは違う文化・環境の中での生活は刺激的でとても新鮮だった。人々は様々な人種がいて、とてもフレンドリーで親切であり、また考えかたや感じ方も違うと感じた。自分の意見をしっかりと持っているつもりであったが、より明確な意見を持ち、それをはっきり表すことが大事であると感じた。

Perth の海や空は青くとてもきれいで、また町並みひとつとっても絵になりそうなくらいきれいですべて写真にとって、丸ごと持って帰りたいくらいきれいだった。特にロットネスト島の景色は今まで私が見たことのある中で最高の景色であり、とても感動した。しかし一方ではピナクルスのように海のとおりであっても砂漠が広がり、水不足の問題を目で見て感じることもできた。水不足は家ででの生活の中でもいろいろと工夫をして、水の節約をしており、問題をしっかりと受け止め、みんなで対処していこうとしているのだろう。



(修了式が終わって一枚)

授業や施設見学をして、私はもっと英語を勉強して行くべきだったと後悔した。そうすれば、理解を深められたらうし、もっと発言することもでき、今の状態よりもより多くを学び取ることができただろうと思った。また生活の中でも、ホームステイファミリーなどと会話をもっと簡単により楽しむことができただろう。

オーストラリアの医療における問題、例えば僻地の治療の問題や、アボリジニの健康問題などまたそれらに対する対処策などについて学ぶことができ、オーストラリアでは他にどんな問題を抱え、どんな病気が多いのだろうかなどと考える一方で、では逆に日本においてはどうかなど、学ばなければならないことはたくさんあると感じた。特に現在は海外旅行も多いので感染症などにおいては日本のことはもちろん海外の医療のことも知っておくことはとても重要である。

専攻別の授業に参加してみても感じたのは実験の設備がとてもいいことに驚いた。ひとりにひとつずつ実験器具が用意され、試薬もすべて調整されていて、全員がそれぞれ実験でき、実験するにはとてもいい環境だと思った。

また学生たちはとても積極的で、その姿勢にとっても感心した。自ら学ぼうとする意欲が感じられたし、とても努力し勉強しているのがわかった。自分と比較して、普段の自分の努力不足や自発性や積極性がなかったと感じ、反省させられるものがあった。もっと勉強しなければと痛感した。

病院や検査センターなどの施設見学では実際の実験の現場の雰囲気を経験することができ、検査の体制や仕組み、施設や技術などとても興味深かった。まだ働いていないのでよくはわからないが、人数も多く、検査室も広がったので、労働環境として日本よりもよいような印象を受けた。小児の病院では子供のためにおもちゃやゲームがたくさんあったり、まるでアミューズメントパークのようなところがあったりと、患者さんのことが本当によく考えられており、患者主体の医療が行われているのだらうと思った。

最後に、私はこのプログラムに参加できて本当に良かった。とてもいい経験ができたし、何よりも楽しみながら、様々なことを学ぶことができた。今回得たものを活かして、より多くのことを学び、努力し、日本のことだけでなく、国際的な視点から物事を考え、行動していきたいと思う。

#### 4) Curtin 工科大学短期留学プログラムに参加して

##### 作業療法学専攻 3年 山地摩奈美

私は1年生の頃からこのプログラムに参加したいと思っていたが、今回やっと参加することができた。3週間という期間はあっという間であったが、日本では学ぶことのできない多くのことを学んだ。

オーストラリアの医療については、Curtin 工科大学で理学療法を学んでいる学生達と共に授業を受けたことが一番印象に残っている。授業は朝早く8時から始まり午前中は講義で、午後は午前中に講義で学んだことを実習するという内容であった。高次脳機能障害についての講義の中では、3人の先生が協力して行っていた。そのうちの1人の先生は高次脳機能障害の患者の役をしており、学生達は視覚的にもその障害について学習ができていた。この方法は頭にも残りやすく、イメージもしやすいのでとても良い方法だと思った。そして、次に

歩行についても講義を受け、午後の実習ではこの歩行について行った。まずは先生が実際に行き、歩行障害のある人にどのようにアプローチしたら良いのかを示し、その後グループに別れ実習し、先生が一つひとつのグループを回り確認していった。これを繰り返し行い、一つひとつの動作を丁寧に実習していた。ほとんどの学生が積極的で、実習も真剣に行っていた。

また、オーストラリアの医療制度やアボリジニ健康問題、Flying Doctor などについて学んだ。オーストラリアの医療には、日本と似た部分もあるけれども、アボリジニのようにオーストラリア独自の課題を抱えていることを知った。



(台湾からの留学生と)

施設見学では、理学療法のクリニック、Nursing Home、リハビリテーション病院、子ども病院ととても多くの施設を見学させていただいた。理学療法のクリニックでは学生が臨床実習に来ており、そこに一緒について見学させていただいた。患者の前では学生はサービスを提供する一人して堂々と行っており、アドバイザーとの相談も的確に行っていた。リハビリテーション病院では理学療法だけでなく、作業療法についても見学させていただいた。この病院には Functional training room というものがあり、作業療法士が関わって自宅に戻って生活をする練習を行う。その部屋の中には、キッチン、リビング、シャワー、ベッドなどがあり、アパートの一室のようであった。退院前には最終確認のため、一人で生活してみることも行うようであった。実際の家とはもちろん異なるけれども、練習できることで、患者にとってそれが自宅に帰って生活していく自信につながるのではないかと思った。(中略)

ホームステイでは、最初の一週間は積極的に話すこ

とができずにいたが、ホームステイやオーストラリアの生活に慣れてくるにつれ、徐々にホストマザーや他の留学生と話すことができるようになった。しかし、自分の言いたいことが言えなかったり、全部は聞き取れずに適当に答えてしまうことがあったので、もう少し、英語の復習とオーストラリア英語について勉強していけばよかったと後悔した。一緒にホームステイした留学生は最初の2週間は韓国からの留学生で残りの1週間は日本からの留学生であった。韓国からの留学生にはバスの乗り方など教えてもらったり、韓国や日本について英語で話をしたりととても楽しく交流ができた。日本からの留学生ともできるだけ英語で交流し、分からない言い回しはお互いに教え合いながら楽しく交流でき、週末には一緒に外出することもできたので親しくなることができた。ホストマザーは私のつたない英語を一生懸命聞いてくれてとても助けられた。また、観光スポットにも私を連れて行ってくれたり、おいしい食事を毎日用意してくれたり、ホストマザーのおかげで3週間元気に楽しく生活することができたと思う。

今回の経験を通して、まず私が一番に思うことは、机上での学習だけでなく実際に自分でやってみるという学習も重要であるということである。今までは、先生に紹介されたビデオ教材など積極的に見ることをしなかったり、自分で実際に動いてみるということも、あまり考えずに行っていた。そのため、障害像の把握や起こりうる問題などにピンときていなかった。なので、これから学習していく上で、机上の学習だけでなく、実際にやってみたりビデオを見てみたりすることで理解を深めていきたい。また、日本を出て他の国の医療について学んだとき、私は日本の医療について勉強不足であることを痛感した。日本の医療はどうなっているのか、これからどのように変わっていくのか、他職種は何をしているのか。知っているようでいて、理解していない。オーストラリアで学んだことをもとに、日本ではどうなっているのかこれから学習していきたいと思う。そして、オーストラリアだけでなく、カナダやスウェーデンなど他の国とも比較できるようになりたいと思う。良いところは真似し、進んでいるところは将来日本もこうなるかもしれないと見越して、臨床で働けるようになりたい。



(カーティン工科大学)



(ロッドネスト島のペリカン)



(ワイルドフラワー)

病院スタッフとお茶会  
英語の勉強の成果はいかに？



岩？人？  
ピナクルズ砂漠にて



ナーシングホームの入浴機器



もちろん勉強も  
English Class



いつものミーティング・ポイント  
迷ったらここへ



パースの中心部をバックに  
いつかはあのビルのようにビッグに？





(出発前の信大にて～たくましくなって帰ってこられたでしょうか?)

### 【編集後記】

日程表からも分かるように、8回目をむかえたこのプログラムは、英語の授業、専門の講義聴講、施設見学と盛りだくさんの充実したプログラムです(これに、講義後の遊びやホストファミリーとの生活、週末にはロッドネスト島やピナクルズ砂漠などの名所観光が加わるのですから...). しかし、今回初めて参加した私は、そうした内容以上に、日常とは異なる場に身をおいてみることで自分がこのプログラムの最も大きな意義だと感じました。

私自身も経験したことですが、言語や慣習が違う地において、普段何げなくできていたことがあたり前ではなくなってしまう経験が、些細なことから重大なことまでたくさんあります(たとえば、かの地のバスは、いちいちバス停をアナウンスしてくれないのです)。そうした「非常識」は違和感や困惑を私たちにもたらします。しかし、そこで生活していかななくてはならない私たちは、様々な対処法を考えて試行錯誤をせざるを得ません。それは、そのまま自分の可能性とか限界に向き合う体験とも言えるでしょう。「英語が意外にできた、できるようになった」という人も、「英語はできなかったけど何とかなるものだった」という人も、きっと違和感や困惑を感じる中で、自分のできることとできないことを見つめつつ、それぞれ「何とかやっていく」という学習をしてきたのだと思います。

こうした貴重な機会を提供するプログラムは、これまでこのプログラムを守り作り上げてきたスタッフの方々の努力、同窓会からの金銭的援助、保健学科のスタッフの方々によるご助力などに支えられています。最後にあらためて感謝申し上げたいと思います。

(文責、井口)



.....  
**「信州大学-Curtin University of Technology 大学間学术交流協定に  
基づく平成 20 年度夏期海外単位認定プログラム 実施報告書」**

2008 年 12 月 22 日

発行責任者:市川元基

編集 :平成 20 年度夏期留学・単位取得プログラム担当チーム

発行 :信州大学医学部保健学科

.....